

## 報告事項-3

### 第5回世界工学会議(WECC2015 京都)

#### 開催結果報告

#### 1. 開催概要

- (1)会議名: 第5回世界工学会議  
World Engineering Conference and Convention (WECC2015)
- (2)主 催: 公益社団法人日本工学会、日本学術会議、世界工学団体連盟(WFEO)  
国際連合教育科学文化機関(UNESCO)
- (3)開催期間:2015年(平成27年)11月29日(日)~12月2日(水)  
(併催:11月28日~12月4日 WFEOの総会、理事会、委員会を開催  
11月28日 国際シンポジウム「河川技術が果たすイノベーションと社会貢献」開催)
- (4)開催場所:国立京都国際会館(京都府京都市)
- (5)講演件数:特別基調講演 7件  
依頼講演 251件、ポスターセッション発表 422件
- (6)技術展示会 出展 97団体(企業、研究機関、大学、協会等)145小間
- (7)参加状況:68ヵ国、2地域 1990人(国外521人、国内1469人)  
市民プログラム等の付随行事 1198名 合計 3188名

#### 2 会議結果概要

- (1) 会議の背景(歴史)、日本開催の経緯:

世界工学団体連盟(WFEO)は、1929年に日本政府が東京で主催した「万国工業会議」を契機として、欧米工学会議が設立され、その後1968年に世界工学団体連盟として正式に設立された。現在では、93カ国、1500万人以上の技術者の代表、ユネスコを含むアジア・太平洋、全米、欧州などの世界各地の11の地域工学団体連盟の国際団体が連盟に関与しており、日本からは日本学術会議が正会員として、日本工学会が準会員として活動を実施している。世界工学会議はおおむね4年ごとに開催する国際会議であり、第1回は2000年ドイツ、第2回は2004年中国、第3回は2008年ブラジル、第4回の2011年9月にはスイスで当会議が開催された。日本学術会議、日本工学会は「工学:イノベーションと社会(Engineering: Innovation and Society)」のテーマのもと、第5回世界工学会議の誘致活動を行い、2015年に日本の京都府での開催が世界工学団体連盟理事会で承認された。

- (2) 会議開催の意義・成果:

第5回世界工学会議を、2015年に日本(京都)において初めて開催することになり、第5回世界工学会議の開催年の2015年は、我が国が科学技術創造立国として推進中の第4期科学技術基本計画の最終年度にもあたり、日本が21世紀においても持続可能な発展を遂げる科学技術イノベーション立国であることを示すとともに、それを支える工学・技術力、並びに人材力を世界に示す極めて貴重な場である。おりしも、東日本大震災と原発事故という国難からの復興、並びにその教訓を活かした持続可能な発展に向けた日本の取り組みに対する世界からの期待は高まりつつある

状況の中、我が国はこの世界からの期待に応えて、第5回世界工学会議の場でその成果を世界に発信することができた。

(3) 当会議における主な議題(テーマ):

第5回世界工学会議は、”World Engineering Conference and Convention”(WECC2015と略す)として、「社会のための工学」の視座に立ち、「工学が実現を目指すイノベーション」と「その実現の基盤となる技術者、研究者による論文発表」の両面を重視している。このことに鑑み、会議の統一テーマに「工学:イノベーションと社会」を取り上げ、主要テーマを3つに大別し、Ⅰ:持続的な成長と社会の発展に向けたイノベーション、Ⅱ:イノベーション実現に向けた工学研究および開発、Ⅲ:社会のための工学とした。

(4) 当会議における主な成果(結果)、日本が果たした役割:

日本の産業界、学術界・教育界、行政ならびに市民の総力を挙げた取り組みにより、産業界と日本工学会を構成する工学系学協会とともに、「社会を支える工学」、そして「社会イノベーションを創る工学」の実践例を世界に発信した。特に、ハード・ソフトシステムとサービスを含む高付加価値創造型ものづくりについては、産業界の総力を挙げた貢献があった。また、京都プログラムやエンジニアリング・カフェ、さらに、テクニカルツアーや見学会を通して、日本のテクノロジーと文化を体験してもらうことができ、その意義は大きかったと考えている。一方、技術展示会においては、団体、企業、省庁、大学など広い範囲の企画を実施することにより、国際会議の充実度を高めることができた。

### 3 市民対象公開プログラム

- (1) 京都プログラム:11月29日(日)、京都商工会議所講堂、講演 3件
- (2) エンジニアリング・カフェ:11月30日(月)、同志社大学 講演 3件
- (3) 特別基調講演 No.7天野 浩(名古屋大学)を一般にも公開:12月1日(火)、国立京都国際会館

### 4 共催国際シンポジウム「河川技術が果たすイノベーションと社会貢献」

例年共催している WFEO の「災害リスクマネジメント分科会」国際シンポジウムを、平成 27 年度は第5回世界工学会議の併催行事として、11月28日(土)に同会場にて開催した。

以上

-----  
謝 辞

2012年4月に組織委員会を設置して準備を開始して以来、日本工学会を構成する学協会をはじめ多くの方々には多大のご支援を賜りありがとうございました。プログラム構成から会議の周知ならびに参加者動員のご協力まで、各学協会のご協力なしには成しえない事業でございました。特に準備の最終段階においては皆様に多大なるご心配をおかけしましたこと誠に申し訳なく存じております。

4年間にわたりまして、とてもここでは書ききれないほどのご支援・ご協力をいただきましたこと本当にありがとうございました。衷心より厚く御礼申し上げます。

公益社団法人 日本工学会  
会長 佐藤 順一